

うおーみんぐ

京都府地球温暖化防止活動推進センター通信

No.57 夏号



5/27再エネ工作教室・屋外での実験の様子（関連記事p.7）



6/1うちエコ診断士研修会・模擬診断の様子（関連記事p.7）



6/29 法人総会を開催しました（関連記事p.7）

contents

- 2-3 特集
宅配便再配達を減らそう＝
社会的損失を減らそう
- 4 省エネチャレンジの参加効果
- 5 第8期 地球温暖化防止活動推進員
府内各地で活躍中！
- 6 理事によるコラム①
コミュニティサービスセクターとしての
「温暖化防止活動推進センター」
- 7 【活動レポート】
温暖化防止すごろくを使って学習会を実施
親子向けに再エネについて学ぶ
工作教室を実施
うちエコ診断士の研修会を開催
京都地球温暖化防止府民会議の
総会を行いました
- 8 お知らせ
夏休み省エネチャレンジ
けいはんなエネルギー教室
企画展示「夏休み限定！クールチョイス☆
チャレンジ展～ミッションをクリアしよう！～」



京都府地球温暖化防止活動推進センターは、府内の温暖化防止活動を様々な面からサポートし、一層活性化させることを目的に活動するセンターです。平成15年10月10日、府内の多様な団体が連携し新たに立ち上げたNPO法人 京都地球温暖化防止府民会議が京都府知事からセンターとしての指定を受け、その活動を開始しました。

京都府地球温暖化防止活動推進センターの活動は、国、京都府、府内の多様な団体、会員の皆様などのご支援によって支えられています。



宅配便再配達を減らそう＝社会的損失を減らそう



指先一つで商品が自宅まで増加する電子商取引

ポチッとボタンを押せば、自宅まで商品を届けてくれるインターネットでのお買い物（電子商取引 EC=electronic commerceとも呼ばれます）。その利用者数はどんどん増加しています。

最新の調査（経済産業省「平成29年度我が国におけるデータ駆動型社会に係る基盤整備（電子商取引に関する市場調査）」）によれば、BtoC（事業者から消費者への販売）の規模は16兆5,054億円にのぼり、前年比 9.1%増という大幅な伸び率を示しています（図1）。また、このうち35%はスマートフォンによって注文されています。「指1本でお買い物」という、魔法のような世界が、現実のものになっているのです。学業や仕事で忙しい人にとって、あるいは重い商品を自ら買いに行くのが困難な人にとって、電子商取引は非常に便利で重要なツールとなっています。

再配達の増加が引き起こす社会課題

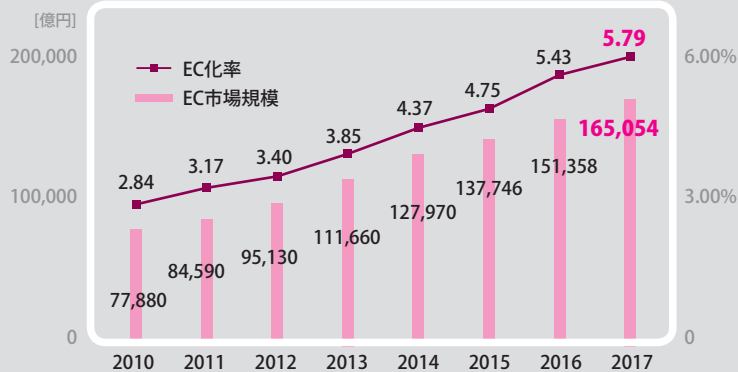
しかし、便利だと喜んでばかりはいられません。急激な電子商取引の増加は、再配達の増加にもつながっています。環境省の調査結果によれ

ば、宅配便配達のために走り回るトラックの走行距離のうち、20%が再配達のために費やされており、これが様々な社会問題を引き起こしつつあります。

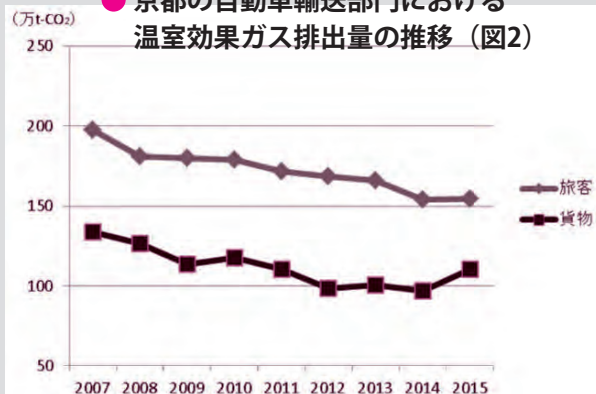
一つは、ドライバーの不足。どんどん増加する宅配便にドライバーの数が追いつかず、過酷な労働状況にあることは、ニュースでも大きく取り上げられました。現在では宅配業界においてドライバーの増強が図

られています。今後は労働人口が減る中でドライバーの確保が難しくなっていくと言われています。現在再配達のために費やされている労働時間は約1.8億時間/年と推計されており、これは9万人（トラックドライバーの1割）の労働力が再配達（＝つまり新たな価値を生み出さない労働）に費やされてしまっていることを意味します。経済的損失とも言えます。

● BtoC-ECの市場規模およびEC化率の経年推移（図1）



● 京都の自動車輸送部門における温室効果ガス排出量の推移（図2）



提供：京都府環境部地球温暖化対策課



もう一つは、気候変動への影響です。再配達のために排出されるCO₂の量は、約42万t-CO₂と推計されています。これは、山手線の内側の2.5倍の面積の杉林が吸収する量に相当します。

京都の自動車輸送部門における温室効果ガス排出量を見ると「貨物」は上昇に転じており、この一部は再配達によるものと考えられます(図2)。

受け取り側の意識が重要

なぜ再配達が多いのでしょうか。国土交通省の調査結果によれば、宅配便の7割は、自らがインターネットで注文したものでした。しかし7割の人は、受け取り時間の指定をしていませんでした。また1回目の配達で受け取れなかった理由については、「配達に来るのを知っていた

が、用事ができて留守にしていた」、「もともと不在になる予定だったため、再配達してもらった予定だった」という回答が合わせて約4割に達しています。つまり、「再配達が当たり前」だと思っている消費者が少なくないということです。

宅配ボックスの設置、配達状況のお知らせサービスの充実など、設備または宅配事業者側のサービスももちろん重要ですが、受け取り側が「再配達の社会的損失」について認識し、再配達を減らすための取り組みを行うことも、極めて重要だと言えるでしょう。

宅配便の再配達を減らす「COOL CHOICE」を！

宅配便再配達を減らすために、私たちにできることはたくさんあります。ぜひあなたにピッタリの方法

を見つけて、実践してみてください。また、地域や職場の学習会で、再配達防止の呼びかけを実施してみてください。

再配達を減らす取組の例

宅配便を使わずいつもの地域のお店で買う(地域経済を元気にすることにも繋がります)。

時間指定をして確実に受取る。

コンビニ受取や、集配所受け取りを利用する。

宅配事業者によるお届け日時通知サービスを利用する。

駅などに設置されている宅配ボックスを利用する。

自宅に宅配ボックスを設置する(安価なものもあります)

宅配便の再配達削減 京都における最新事情 -CO₂排出、労働環境の悪化…社会的損失を減らせ！-

6月29日に、当法人の総会に合わせ、表題のセミナーを開催しました。昨今の再配達増により、配達員の労働問題だけでなくCO₂排出等の環境問題にもつながっています。再配達の現状について情報共有をした後、京都府内でのこれまでの取組について事例報告をしていただき、利用者としてできる対策を考えました。当日は55名の方にご参加いただき、活発な意見交換が行われました。

セミナーを開催しました



事例報告者

京都府環境部地球温暖化対策課
企画・推進担当 主任
細井 允貴 様

H29年度オープン型宅配ボックスの導入支援・京都府スマート物流研究会等について

京都市環境政策局 地球温暖化対策室
地球温暖化対策課長
安田 真也 様

H29年度京(みやこ)の再配達を減らそう！プロジェクト(学生アパート・大学での宅配ボックスの利用調査等)について

京都市立高倉小学校
PTA前会長
坪田 猛 様

通学路の交通安全の視点から、H27年度に実施した再配達削減の呼びかけ等について

省エネチャレンジの参加効果

金悠希

京都府立大学大学院 生命環境科学研究科
環境科学専攻 環境心理行動研究室

子どもと一緒に 家族で取り組める 省エネ

省エネ行動は、節水や節電、冷暖房の温度調節など、我慢をするイメージが伴いがちですが、生活者自身の快適な暮らしのために選んでいくことなのだという意識の転換が重要です。京都府では子どもと一緒に家族で取り組める「夏休み省エネチャレンジ」が行われています。今回その効果を検証するため、昨年度の省エネチャレンジ参加者の結果を分析しました。

省エネチャレンジ とは？

取組後、保護者の方に省エネチャレンジへの感想、取組前後の省エネ行動の実践程度などに関するアンケートに回答していただきました。

1 「夏休み省エネチャレンジ」への参加は今年を含めて何回目ですか？
※今年が初めての方は1とお答えください。 今年を含めて()回目

2 「夏休み省エネチャレンジ」に取り組む前と後の省エネ行動について、それぞれ該当する箇所1つに○をおつけください。

アンケートご記入者	取り組む前		取り組んだ後	
	ほとんどできていない	少してきている	まあまあできている	かなりできている
保護者	☐	☐	☐	☐
お子様	☐	☐	☐	☐

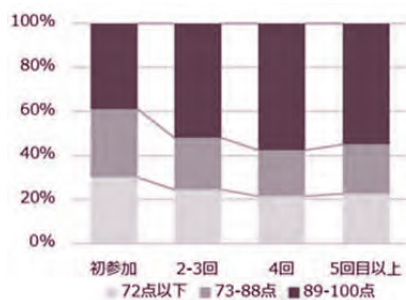
チャレンジに参加されたお子様とアンケートのご記入者に関して該当する欄に○をおつけください。○の数はたての列毎に1つです。

省エネチャレンジ の効果は？

昨年度は、140校の小学校でチェック表が配布され、19,701世帯が参加しました。取組後の得点は81-100点が64.5%と、全体の半数以上が高得点でした。今回の取組得点・今までの参加回数・取組前と後の省エネ実践程度などの関連について分析したところ、次のような傾向がわかりました。

参加回数が多いほど、 得点が高い家庭が多い。

図 参加回数別の得点分布



得点が高い家庭は、取組後の省エネ実践程度も高い。

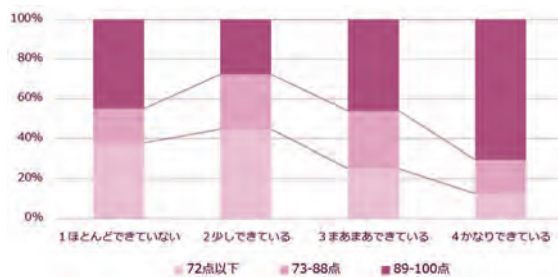
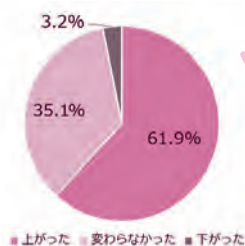


図 取組後の実践程度と得点の関係

子どもがチャレンジ取組後どのくらい省エネ行動をするようになったのか訊いたものと、得点との関係を見ると、得点が高いほど省エネ実践程度も高い

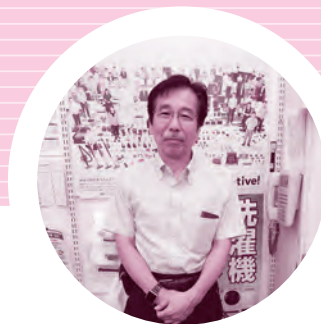
取組後の省エネ実践程度が 取組前よりも高くなった家庭が多い。

図 省エネチャレン取組後の省エネ実践程度の変化の割合
2.少してきている⇒3.まあまあできているのように、
省エネ実践程度が上がった家庭が約6割を占めた



省エネチャレンジに毎年継続して参加することによって、より省エネ行動を行うようになる傾向があります。また、省エネチャレンジは子どもが自発的に省エネ行動をするきっかけとなるイベントであり、その影響が家族にも現れていることがわかりました。

第8期の推進員で、再エネコンシェルジュでもある河村泰三さん。お仕事である京都電工株式会社代表取締役の肩書以外に、京都中小企業家同友会や10以上の所属と肩書、10以上の資格をお持ちです。



● 推進員
河村泰三さん

精力的な活動の背景にある想いをお伺いしたところ、「やっぱり使命感ですかね。」との答え。実は11年前にくも膜下出血になり、生死を彷徨うような事があったという河村さん。その経験から、「一番大事なことは、自分を大事にする。もちろん、家族もつながりのある人々も大事にする。そして自分の大事にしているものを伝えていくというのが、自分の使命感の根幹」とおっしゃいます。

それは会社の経営の姿勢にも繋がっているそうです。河村さんのお店は、いわゆる“まちの電気屋さん”。「やっぱり同じ電気屋をするんやったら、地球温暖化防止に役立つもの、地球に優しいものをどんどん進めていこう、それを使命にしましょう。」地球があってこそ我々の事業なんだという根底の所に立って、経営理念を作っていこうとのこと。

河村さんはそれを同友会の仲間にも広げています。昨年度、河村さんが企画した同友会の例会は、エネルギーシフトや地球温暖化がテーマでした。中小企業家同友会のエネルギー宣言(※)などにも触れ、「自社でできるエネルギーシフトを考えてみましょう」と呼びかけられました。

何のために経営しているのか真剣に考えた時に、色んなヒントをくれた先輩経営者がいた、と河村さん。「変な例えですけどね、爪楊枝でお風呂の湯を回せるか？と言われてね。要は、そんな事はやってみないと分からないわけですよ。それを聞いてその晩に実際にやったらね、お風呂の湯も回るんですよ。話を元に戻すと、人がやっていていいなと思う事は、絶対自分から取り入れてやってみる。学んだら、自分でも実践していかないとね。」

やっぱり地球あってこそ。孫世代の時に、今以上に悪くなって欲しくない。だから、できるだけ化石燃料に頼らず、自分の家に太陽光をつけて、蓄電池もつけて、車は屋根に太陽光発電をつけたハイブリッドに乗って。孫ができて余計にそう思う、という河村さん。「ひ孫までは多分見られへん。人間は必ず死ぬ。死ぬ間際に、やれるだけの事はやった、いい人生やったなって思って死にたいじゃないですか。その中の一つに、おこがましいですけど、地球にちょっとでも貢献して死にたいと思っている訳ですよ。そういう思いが、自分の使命の中にあると思うんですよね。」

※中小企業家エネルギー宣言

<http://www.doyu.jp/org/material/doc/energydeclaration2016.pdf>

2016年に中小企業家同友会全国協議会の総会にて採択。

詳しくは <http://www.doyu.jp/news/160725-142817.html>



河村泰三さんのお店



コミュニティサービスセクターとしての「温暖化防止活動推進センター」

郡 崙 孝 特定非営利活動法人 京都地球温暖化防止府民会議 理事長／同志社大学名誉教授

ある外資企業の環境教育教材の翻訳に関わったことがある。後書きに「誰もが世の中が変われば、自分も変わる」と思う、しかし、「あなたが変われば、きっとその思いが他の人に通じて、世の中が変わる」と書かれていた。「カントの一般行動原理」に即した取り組みへの呼びかけである。

我が国の環境計画でも、主体の責務として、より具体的にそれぞれの主体がやるべき行動を列挙している。社会は個から成り立ち、それぞれの個(主体)がそれぞれに課せられた役割・責務を全うすれば、社会的にも問題の解決が図られる、というわけである。解決しないのはそれぞれがそれぞれの責務を果たさない(私以外の皆が取り組む(タダ乗り)ことが私には一番望ましいと皆が考える)からであり、自主的に行うことができなければ、強制的に規制(ムチ)を強めるか、金銭的インセンティブ(人参)を直接・間接に与えることにしよう、と言うことになる。

社会は個から成り立つ以上のもの(社会的有機体)であると考えれば、そこには、優加法性が存在する。関数的には $f(x+y) > f(x) + f(y)$ で示される。公と共、公と私、私と共に見られる協働(coproduction)による共創(cocreation)である。バラバラに取り組むよりも有効で効果があるとされる。さらに、公と公、共と共、私と私の協働(collaboration)も考えられよう。このように多様な組織が多元的に

より良く社会的課題を担い、役割と責任を分担する社会をP.ドラッガーは「組織社会」と呼んだ。個が所属する古い中間組織である家庭や共同体が核化するにつれて、新しい中間組織が個の社会における個の位置と役割を与えることになる。責任ある自由とは、放縦ではなく、自分の行動の社会影響に責任を持つ(自らの行動が温暖化を促進しているという自覚)自由である。機能する社会とは、このような市民社会である。

P.ドラッガーはとりわけ共(社会・市民)セクターをコミュニティサービスセクターと呼び、自治体になり変わってより良く社会的課題を担う「未来産業」と名付けた。何も、自治体だけが独占的にコミュニティサービスを提供するものでも無い。提供しても非効率・画一的で、かつ低生産性で、市民満足からほど遠い。私企業にとってもそう旨味がある仕事では無い。市民が中心となって、個々バラバラではなく、working together することによってその成果は優加法的になる。共による「市民性の中核」である「責任あるコミットメント」と公との「対等のパートナーシップ」こそ共組織に求められる矜持である。ともすれば、自治体との結びつきを強めることによって、公の「肩代わり」となることだけは避けなければならない。自治体だけが生き残って、地域が衰退することにもなりかねない。地域市民と共にある、そんな「温暖化防止活動推進センター」でありたい。

温暖化防止すごろくを使って学習会を実施

5/17

5/17(木)、乙訓保健所にて、省エネ教室「楽しく学ぶ地球温暖化」の講師をさせていただきました。参加したのは32名の府民の方です。まず参加者の方同士で「温暖化防止すごろく」を体験していただき、その後、すごろくに出てきた「選ぶ省エネ」の効果などについて、クイズを交えて解説しました。がまんでない、豊かな生活につながる省エネについてお伝えしました。

参加者には乙訓保健所からグリーンカーテンにと「洛いも」の苗のプレゼントもありました。

親子向けに再エネについて学ぶ工作教室を実施

5/27



真剣な表情で工作に取り組む



ソーラータウンの完成！

5/27(日)に、再エネ工作教室「未来の町(ソーラータウン)をみんなで作ろう」を行いました。会場は木津川市のきつつ光科学館ふおとんで、40名の小学生親子にご参加いただきました。温暖化教室に加えて野外で太陽熱の実験も行い、温度で色が変わる水の変化を見てとても盛り上がりしました。「こんなに太陽の力ってすごいんですね」という保護者の方も。授業の後には、太陽光発電の付いたソーラーハウス工作。みんなで作ったハウスを並べ、未来のソーラータウンを作りました。

うちエコ診断士の研修会を開催

6/1



情報交換会の様子

6/1、うちエコ診断士の研修会を開催し、診断士21名の参加がありました。

研修では、平成30年度うちエコ診断を開始する前に診断をするうえで必要な情報を共有しました。(個人情報取り扱い、診断時のマナー、診断の手順、補助金の情報、特に京都市の住まいの創エネ・省エネに関する補助金が平成30年度はすでに終了したことや、ZEHに関する国の補助金に関することなど)

その後、当センター職員による模擬うちエコ診断に参加者全員で見ながら、診断時に気を付けなくてはならないことや診断で使えるアドバイスなどを出し合いました。ちょっとした説明の仕方でも伝わり方が違うなど、日ごろの診断方法を見直す良いきっかけとなりました。

平成30年度は京都市のエコ学区事業の関係で400件の診断を予定しております。

●うちエコ診断は、受診されるご家庭の年間エネルギー使用量や光熱費などの情報をもとに、専用ソフトを用いて、お住まいの気候やご家庭のライフスタイルに合わせて無理なくできる省CO₂・省エネ対策を提案するものです。

6/29

京都地球温暖化防止府民会議の総会を行いました

6/29に、当センターを運営するNPO法人 京都地球温暖化防止府民会議の総会を開催し、昨年度の報告と今年度の事業計画・予算などが可決されました。

また、関連セミナーとして「宅配便の再配達削減 京都における最新事情」を開催しました(関連記事p.2~3)。

● 夏休み省エネチャレンジ web <http://www.kcfca.or.jp/jigyoku/kyouiku/natsuyasumi.html>

今年度も、親子で夏休みの1週間省エネに取り組む「夏休み省エネチャレンジ」を実施します。(京都府委託事業)。昨年度は140校、過去最高の19,701世帯が参加。「シャワーを出しっぱなしにしない」といった省エネの取組はもちろん、「住んでいる地域にある太陽光発電パネルや薪ストーブなどを探してみよう」などの再生可能エネルギーを意識できる内容もとり入れています。

個人や、子供会など地域グループでの申込も可能です。ぜひこの夏は、家族で省エネ・節電にチャレンジして、地球の未来を考えるきっかけにしてください。



今年もみんなで一緒に取り組みましょう！

● けいはんなエネルギー教室 web <http://www.kcfca.or.jp/jigyoku/keihanna.html>

日時 平成30年 7/31(火)・8/1(水)・8/2(木)・8/22(水)・8/23(木)
いずれも、午後の部9:30~12:00/午後の部13:30~16:00(全10回開催)

場所 けいはんなe2未来まなびパーク(けいはんなプラザ ラボ棟)

対象 京都府内在住の小学生(原則4年生以上)と保護者

人数 午前の部・午後の部の各回25名(先着順) **材料費** 500円

内容 地球温暖化について学んだ後、再生可能エネルギーの太陽の光を利用した「ソーラー・ぶるぶるおもちゃ」や「ソーラー・メロディハウス」、熱を利用した「ソーラー・クッカー」や「温水器」、風を利用した「風力発電」などの工作を行います。実施回毎に工作するものが異なります。

主催 京都府環境部エネルギー政策課、京都府地球温暖化防止活動推進センター

写真やクイズで楽しく学べます。工作も大人気！



(すでに府民だよりや学校を通じて広報しており、本ニュースレターがお手元に届いた際には定員がうまっている可能性があります。詳しくはWEBをご覧ください。)

● 企画展示「夏休み限定!クールチョイス☆チャレンジ展~ミッションをクリアしよう!~」

おみくじを引いて出てきた「ミッション」に挑戦。クイズなどで楽しくクールチョイスについて学ぶことができます。温暖化対策をしたステキな未来について考えてみましょう。

期間 7/20(金)~9/3(月)※休館日(木曜)を除く

場所 京エコロジーセンター

対象 主に小学生

京都府地球温暖化防止活動推進センター通信「うおーみんぐ」

(平成30年夏号 平成30年7月発行(年4回発行))

発行: 京都府地球温暖化防止活動推進センター

(特定非営利活動法人 京都地球温暖化防止府民会議)

理事長: 郡嶋 孝

〒604-8417 京都市中京区西ノ京内畑町 41 番 3

TEL: 075-803-1128 FAX: 075-803-1130

URL: <http://www.kcfca.or.jp> E-mail: center@kcfca.or.jp

Facebook: <https://www.facebook.com/kcfca>

編集: 木原浩貴 川手光春 浅井薫 三枝剛 河田理恵子 根岸哲生

法人の活動を支えてくださる会員を募集しています!

年会費 正会員(個人): 2,000円 正会員(団体): 3,000円

準会員(個人): 2,000円 準会員(団体): 3,000円

賛助会員: 10,000円

詳しくは事務局までお問い合わせ下さい。

